



さあ本番、トラバース開始 谷川岳一ノ倉沢

『山岳ぐんま』100号を超えて

群馬県山岳連盟会長 八木原 因明

羽野順一前会長の後を受けて一
期、二年近くが過ぎようとしてい
る。折角仰せつかつた役職であれ
ば大いに事業や組織改革などを積
極的に推進しようかと考えていた

が、結局は何も出来ず、中途半端
で気が重い日々を過ごしている。
佐藤理事長はじめ役員、委員長
任せになってしまっていることに
聞いた風な言葉で言えば、忸怩た
る思いです。日本山岳協会はじめ、
色々なことを引き受けてしまつて
いることから自ら忙しうつている
のでは?とさえ思つてしまふ。

思い切つたことが出来ないのは
時代の変わり目だから登山界も難
しい時期にある、などと言つて逃
げようとしていられないだろうか、と
時々反省もする。

実は気が重い本当の理由は日山
協のワーキング・グループで「組
織の見直し」をやらなくてはいけ
ないのであるが、それが進んでい
ないことが一番の原因なのである。
群馬岳連はもちろん大事であるが、
登山界全体を考えることも重要で
ある。

こちらも何もせず、何も出来ず
に一年が過ぎてしまった。回りの
人達の助けを得て前進させなくて
はならないのだが……岳連につい
ても事ほど左様、ということであ
る。(こんなところでぼやいたら、
愚痴つても仕方ないが)

しかし、組織の活性、元気を出
させるにはなんと言つても動くこ
とだ。自ら動くこと、外に出るこ
とだ。やらないより、やって修正
する方がまだ良いし、山岳連盟で
ある。野外に出る、山に登る。日
本の山、春も夏も秋も冬の雪の山
も水の渓も外国の山々も。

重い、大きな組織を背負つて先
頭を歩いているつもりでいて、後
ろをひよいつと振り向いてみたら
誰もいない。実は空っぽの組織な
のに必死で背負つていると思い込
んでいた、ということの無いよう
にしたい。

調べたわけではないので、正確
ではないが群馬岳連の加盟山岳会
数が最も多かつた時で四十五か
四十六山岳会(部)くらいであつ
た。それが今では二十四山岳会で
あるから半減近い。当時は職域山
岳会も元気であった。山岳会はそ
れぞれが登山学校的な機能を果た
していた。

現在の群馬岳連は日山協内での
規模的にはちょうど真ん中辺り

であるが、活動が活発であった一九六〇年代～一九八〇年の初めくらいの純然たる登山と較べると一つの山岳会分程度の活動ではないかとさえ思つてしまふ。

ここまで山岳会が疲弊、弱体、縮小した小さな岳連ならば、山岳会を全て合併してしまつたらどうかという暴論が頭をよぎるが、それではちぢこまり、益々縮小スパイアルに入り込む。

やはりここは諦めてはいけない。今の人達は登山者に限らず組織化を嫌う、などと言い続けてはいけない。仲間を募る。未加盟山岳会、登山愛好会、グループに声掛け加盟を促す運動を展開しましよう。名付けて「山岳会倍増計画」です。

具体的に岳連会員の倍増運動を開始したい。自分たちが好きで始め、続いている山登りのためにひと肌脱ぎ、一苦労して欲しいと思います。限界は自然や岩場の中ではなく、自らの頭の中にあると承知して下さい。意識の転換、変換が無くては変わらないし変えられません。



谷川岳一ノ倉沢

まず先ず基礎、足下を固めて仲間を呼び込み、枠の中で会員同士の競い合い、切磋琢磨がなくては登山、登攀レベルが上がるはずもありません。

そしてそこから敢えて飛び出る、抜け出すくらいの力があればそれは個性を持つ本物の登山家、クライマーと言えるかも知れない。脱落ではなく、である。そんな会員も多く育つて欲しい。

本年（平成二十六）正月、日山

協の尾形専務理事がTBSテレビで冬山遭難のコメントを求められていたが、いかにも歯切れが悪い。仕方が無いのだ。いくらお粗末な遭難事故でも登山者をそ

の実践しか有り得ない。

「登る」以外にない。登山、登攀の幅が広がる。これが大

事である。小学生を諭すようなことは言いたくないが、興味の幅を広げて欲しい。今の自分がやっていることが全てだ、自分のやっていることが一番正しい。自分の主張が主義だ、思想だなどと考えてしまう頑迷さは捨てて欲しい。

登れなくなつた老会員が岳連会費だけ払つて山岳会の存続だけを図つているという笑えない現実がすぐそこにあります。中身のない、形骸、抜け殻山岳会はどうにもならない。

また現在やつてある事業も今まで本当にいいのか？と考え直す必要もある。例えば県民登山大会も引き受けける山岳会も無いのに何を……と言われそうであるが、ただ毎年の恒例行事、事

う悪し様に、口を極めて批判することも出来ない。

山岳団体の第一の基本は登ることである。登れば残念ながら遭難も起こし得る、起こり得るからである。絶無が理想だが現実にはそれは行かない。そのためにはまずは体力。そして技術や知識を習得し、精神力を鍛える。それには世の中にはこういう人達がいる、とそばで見ているだけでも面白と感じてしまうかも知れないが、道楽とは金も手間もかかるものである。またそれが醍醐味。

登山の幅が広がる。これが大切なのである。小学生を諭すようなことは言いたくないが、興味の幅を広げて欲しい。今の自分がやっていることが全てだ、自分のやっていることが一番正しい。自分の主張が主義だ、思想だなどと考えてしまう頑迷さは捨てて欲しい。

登れなくなつた老会員が岳連会費だけ払つて山岳会の存続だけを図つているという笑えない現実がすぐそこにあります。中身のない、形骸、抜け殻山岳会はどうにもならない。

参加して良かった、面白かった、為になつたと喜んでもらおうと言う気持に欠けていなかつたか？義務のように連れて行つてやる、上から目線で毎年の事だから仕方なくやる、みたいな気持は無いだろうか。

岳連の県民登山がアルプスのプロガイドのように厳しく登らせられる訳が無い。岳連会員のスタッフがあれだけの大人数で関わつても多大の参加者を日本全国の緑の山中を一緒に歩く、アルプスとは違う山を登るのであるから考えて欲しい。人任せ、でなく、一例である。

ジュニア育成如何で登山界の将来が決まつてしまつかる、「子供の頃に自然体験が豊富だった大人ほど、物事への関心・意欲が高い傾向にある」という調査結果が国立青少年教育振興機構により発表（二十代～六十代、二〇一〇年五月）。されている。

「子供時代に自然の中で遊び、厳しかつたり、優しかつたりする

一時間早めての出発でしたが、四六五〇m付近で、天候悪化のため下山することになりました

日本での搜索と同じでしたか。大き
な違いはほとんどの場合『遺体搜
索』であるという点でした。全体
的にのんびりした搜索でしたので、
日本では『生存者の救出』のため
に迅速に搜索する必要があると付
け加え、デモンストレーションは
終了しました。

この日の夕食後に韓国の遭難の
現状と対策について、プレゼン
テーションが行われました。韓国
の登山道の写真では、タイヤの切
れ端を縦に敷き詰め、とても歩き



ガンシカ山中腹4700m付近

きるという優れもので、高度障害を緩和できるというものでした。気圧を上げているときは、頭痛がよくなるのを感じましたが、ガラフバックから出るとときは、一気に気圧を下げる、高度障害の出る恐れがあることがわかりました。

クライミングワールドカップ リードに出場して

子や鎖がかかりそうな急な登山道に対する対応では何もされていなかっため、昨今では転滑落事故が多いとのことでした。

五日目は悪天候のため、ガシングルへは行かず、ベースキャンプ付近で『雪山登山中にセカンドが滑落』という同一設定での各国のレスキューテクニック交流を行いました。言葉は通じませんでしたが、韓国隊からロープワークを教えてもらいました。

海外登山だったので、言葉が通じるかどうかということに、不安がありました。登山上はお互い母國語でも、ある程度は意思疎通が図れていたように思います。しか

り夜は中国の登山の現状についてのプレゼンテーションが行われました。中国の統計では「登山に含まれるのは標高六〇〇〇m以上で、それ以下は「アウトドア」に分類されるため、遭難事故件数などは少ない印象でした。今回は自分にとっては初めての

ド競技において、安間佐千選手が昨年度に続き年間優勝二連覇を果たし、小田桃花選手が最終戦スロベニア・クラニ戦で初優勝、またボルダリング競技では杉本怜選手がドイツ・ミュンヘン戦で初優勝するなど、日本人選手の活躍が際立つました。

私は六月のリードジャパンカップで七位となり、日本代表に選ばれました。前年度、印西市で行われたワールドカップにも日本開催枠で出場させてもらいましたが、

われたベルギー・ブルス戦に出場することができました。どちらの大会でも予選敗退という結果でしたが、それ以上に多くの経験を得ることができました。

オーストリア・イムスト：私にとっては二年ぶりの海外での大会でした。余裕をもつてウィーンに入り、事前に地元のクライミングジムで身体を慣らしました。やはり壁の規模から、ルートの質も異なり、早速日本との差を感じまし

やすい様子でしたか。日本では標高六〇〇〇m以上で、それ以下は「アウトドア」に分類されるため、遭難事故件数などは少ない印象でした。

今回は自分にとつては初めての海外登山でしたので、言葉が通じるかどうかということに、不安がありました。登山上はお互い母国語でも、ある程度は意思疎通が図れていたよう思います。しか

隊からロープワークを教えてもらいました。

落』という同一設定での各国のレスキュー技術交流を行いました。近で『雪山登山中にセカンドが滑落』という題材でした。韓国

力へは行かず、ベースキャンプ付

五日目は悪天候のため、ガシン

とでした。

昨今では転滑落事故が多いとのこ

とに對しては何もされていなかっため、

日本では標高六〇〇〇m以上で、それ以下は「アウトドア」に含まれるのは標高六〇〇〇m以上で、それ以下は「登山道

われました。中国の統計では「登

山」夜は中国の登山の現状についてのプレゼンテーションが行

いました。日本では標高六〇〇〇m以上で、それ以下は「アウトドア」に分類されるため、遭難事故件数などは少ない印象でした。

今回は自分にとつては初めての海外登山でしたので、言葉が通じるかどうかということに、不安がありました。登山上はお互い母国語でも、ある程度は意思疎通が図れていたよう思います。しか

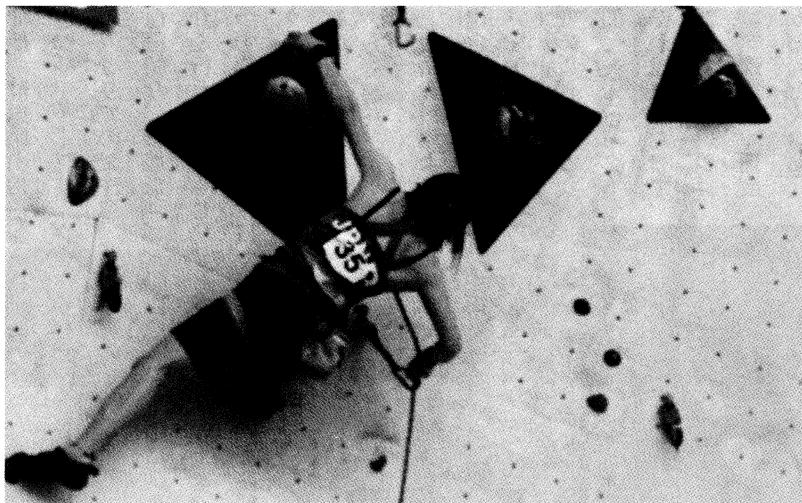
ド競技において安間佑子選手が昨年度に続き年間優勝二連覇を果たし、小田桃花選手が最終戦スロベニア・クラニ戦で初優勝、またボルダリング競技では杉本怜選手がドイツ・ミュンヘン戦で初優勝するなど、日本人選手の活躍が際立つました。

と、九月二十一日・二十二日で行われたベルギー・ブルス戦に出場することができました。どちらの大会でも予選敗退という結果でしたが、それ以上に多くの経験を得ることができました。

オーストリア・イムスト：私にとっては二年ぶりの海外での大会でした。余裕をもつてウィーンに入り、事前に地元のクライミングジムで身体を慣らしました。やはり壁の規模から、ルートの質も異なり、早速日本との差を感じまし

クライミングワールドカップ リードに出場して

し、プレゼンテーションや細かい日常会話などは言葉が通じなくてもどかしい気持ちになることがしばしばありました。通訳できる方が一名しかいなかつたため、一つ聞いては二つ訳すため、時間がかかりました。山の中では言葉はいりませんが、言葉の壁が解消されれば、より実りある訓練になること思います。（前橋山岳会）



イムスト戦一本目

雨でした。予選は二本のルートを登り順位を出し、26位までが準決勝へ進出できます。私は一本目の少しうまくテクニカルなセクションで先に進めなくなってしまいました。続

た。イムストはワインから車で西へ6時間ほど移動した山々に囲まれた小都市です。そんなところに世界最大級のクライミングウォールがそびえ建っています。屋外壁と屋内壁があり、大会は屋外壁のほうで行われるのでですが、当日はとても寒く、天気も生憎の雨でした。

予選は二本のルートを登り順位を出し、26位までが準決勝へ進出できます。私は一本目の少しうまくテクニカルなセクションで先に進めなくなってしまいました。続

く二本目では思い切ってハードな一手を止めることができたため少し挽回し24位でしたが、合計で32位となってしまいました。異なる内容のルートでも安定して登る力が試されるため、自分の苦手な部分

が見えた一戦でした。

ベルギー・ブル

リュッセルからは車で二〇分ほどの郊外での大会でした。こちらも壁の規模が大きく、傾



登り終えて

は上位選手も一旦手が止まるようなパートで足を滑らせ35位。二本目はやはり一本目で力が抜けたのか普段の力を出し切ることができましたが27位で合計は33位でした。大会での他の選手と自分の差や自分の気持ちの切り替えを発見できました一戦となりました。

ワールドカップの出場に際して、

群馬県山岳連盟の皆さんには大変お世話になりました。また応援する会を通して寄付をしていただきた皆さん、本当にありがとうございました。学生最後にこのような経験ができたのも応援してくれた皆さんのおかげです。今回のワールドカップへの参戦は、高校時代から現在まで続けてきたクライミングの集大成となつたと思います。今後はこの経験を生かし、また次の大会につなげていくのはもちろんのこと、群馬県の選手たちを引っ張つてく存在になりたいです。

プールスのゼッケン

募集方法 上毛新聞掲載、口コミ
参加費 三千円（日山協山岳共済保険料含む。ただし、平成二十五年九月より二十六年三月まで有効）

※ザイル等使用登山でありました。一本目

期 日 九月七日（土）雨天決行
場 所 谷川岳一ノ倉沢

コース 谷川岳山岳資料館→マチガ沢旧道出合→一ノ倉沢新道出合（沢登り）→旧道出合（沢登り）→一

ジユニア委員会初回の行事当日は、あいにくの小雨模様であつたが、参加者どなたから問い合わせもなく全員の参加であった。

そんななかで我々スタッフの仕事は日山協より借用したジユニア用のハーネスのセット。大人の腿位のハーネスに安全環付きのカラビナやセルフブリーザー用のシュリンゲをセットした。汗だくの作業だったが、参加者が集まる前に完了。受付と同時にハーネスの配布、本人持参のヘルメット前面に参加ジユニアの名前を記入する。

チャレンジ キッズ プロジェクト 2013 —谷川岳一ノ倉沢—

群馬県山岳連盟ジユニア委員会 委員長
小 泉 俊 夫

では、群馬県山岳連盟会長のあいさつや、チーフリーダーより今回の沢登りでの諸注意、スタッフの自己紹介、参加ジュニアの自己紹介を行う。もじもじ??とあいさつするジュニアが今日の経験をスタートに将来のアルピニストになるかと思うと、俄然頬もしくも見えた。

山岳資料館より旧道をマチガ沢出合へ向けてスタート。小雨と霧が漂うなか、ジュニア達の少し不安のよぎるような顔つきを見たが、それは最初だけ慣れるに従いジュニア達の歩く速度がどんどんスピードアップ。「おいおいモットゆつくり歩こう。」など、こんな注意を言つても聞くものではなかつた。

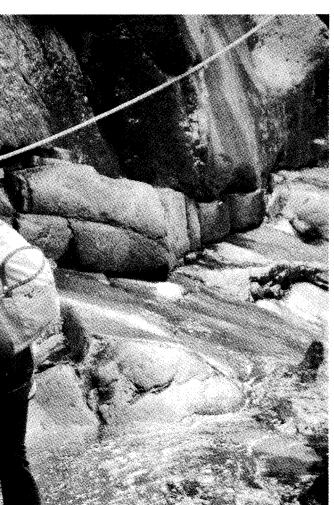
マチガ沢出合で小休止。少し隊列は崩れたがスタッフがいるので問題はない。さつそく水の中にいく子や、まむし岩を触つた

り、登りだすジュニアもいる。
マチガ沢からキャンプ場わきを新道に向け樹林帯を下る。途中転倒に注意するよう話したが何の問題もなく新道に下りる。前日来の雨で渓地には水たまりが随所にあり、靴を濡らさないよう注意をする。ジュニア達もお互いに慣れてきたのか「先生、沢はまだー」と聞いてくる。湯檜曽川の淵に出

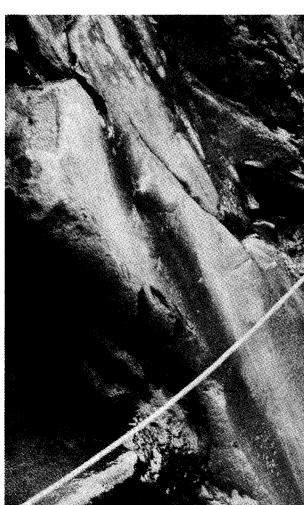
ヤと雑談をしながら歩く。飽きて聞いてくる。湯檜曽川の淵に出たのか「先生、沢はまだー」とアもいたが、やはり手助けも必要でサイズが合わず調整等で多少時間がかかるが無事完了。いよいよ沢に入る。

先頭を歩くりりダーハ後を全員が続く。班分けはせずにそれぞれが適当に分かれて歩く。まだ濡れるのが嫌で飛び石伝いに流れの中を歩く。今日は、事前の調査時よりは水量が多い。天気もいつ降り出すか心配だが何とかいけそうだ。だんだん飛び石も大きくなり始めて沢幅も狭まつてくる。が、ジュニア達にはまったく問題ない。水の中のほうが安心安全とばかりに水中を遡行する。もう全員が膝上まで濡れている。今回の親は問題

た時には「わーすげー」のひとこと。一ノ倉沢出合着「サーコ着いたぞ。」「安全な場所でハーネスを着けよう。」



慎重にカラビナの掛け替え



快適だわ

最初の右岸のトラバースから滝上を左岸へ渡るところが水勢が強く、数人の子はスタッフが補助をする。ここでザイルの掛け替えをしてこの左上へ六、七メートルほどトラバース気味の登りに神経を使つた。この先でまた右岸に渡る。濡れた岩に神経も使い、さすがにジュニア達も疲れが見えてきた。でもみんなフィックスロープをたどりながら、支点でのカラビナ掛け替えも順調にこなし登る。背丈のある者とないものとの差も出てくるところだ。岩が濡れてなければ何のこともないのだが、やはり滑る。

飛び石伝いが終わり、いよいよトラバースの開始だ。約三十一メートルほどフィックスされたザイルにセルフブレーキをとつて一人ひとりが通過していく。岩が濡れているので何人かがスリップして沢落ちたが問題はない。小さな子の支点でのカラビナの掛け替えも堂

にいつたものだ。見ているほう涙が出そうな感動だった。やはり時間がかかったが全員通過し旧道出合に到着。保護者も出合に着いていて皆で小休止を取る。

「サーコこれからが本番だぞー。親が見守る中、一ノ沢出合に向けて登りだす。

最初の右岸のトラバースから滝上を左岸へ渡るところが水勢が強く、数人の子はスタッフが補助をする。ここでザイルの掛け替えをしてこの左上へ六、七メートルほどトラバース気味の登りに神経を使つた。この先でまた右岸に渡る。濡れた岩に神経も使い、さすがにジュニア達も疲れが見えてきた。でもみんなフィックスロープをたどりながら、支点でのカラビナ掛け替えも順調にこなし登る。背丈のある者とないものとの差も出てくるところだ。岩が濡れてなければ何のこともないのだが、やはり滑る。

一度捲道（通常一ノ倉へ入る捲道）脇に出るが沢に戻る。早いもの遅いものと、それぞれの速度で大分隊列が離れてきたがスタッフがついているので問題はない。濡れた右岸をフィックスをたどりトラバースを続ける。小雨が降り始めるがそのまましばらく行くと、

やがてゴーロに代わり大きな石の間をくぐり、無事全員一ノ沢に到着する。

感激の記念撮影をし、捲き道を下る。最後の沢に下りる岩場を慎重に下り、全員旧道出合に到着。山岳連盟スタッフによる暖かいトントン汁のサービスを御馳走になり冷えた体を温めた。

小休止の後保護者

共々一緒に旧道を歩く。いよいよ本降りの雨となる。

雨の為、谷川岳山岳資料館内にて挨拶と修了証及び記念品を渡し閉会とする。

○共同装備 (各会・個人より借用)

m)

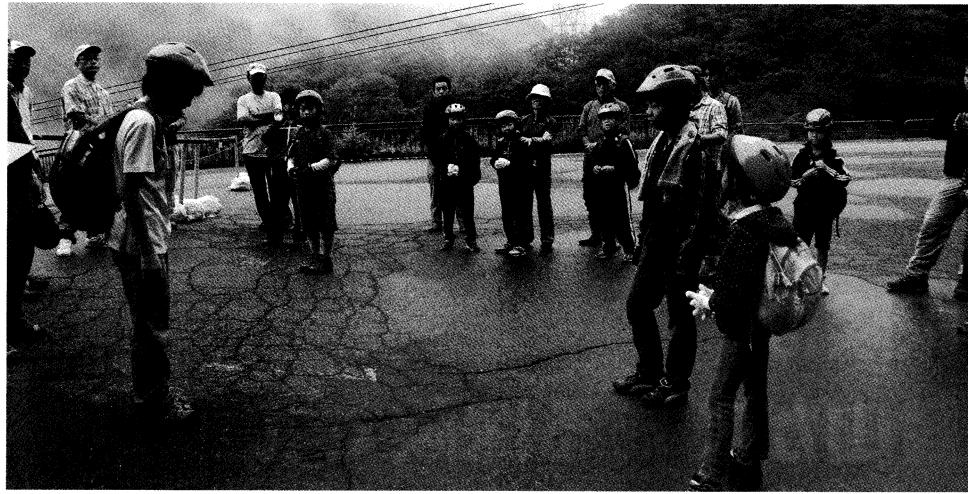
②カラビナ 66 枚

③シリシング 55 本

④ジュニア用ハーネス 15 組 (日山協より借用)

⑤救急医薬品 一式 (田中ドクター用)

○総括 (意)



自己紹介

・事故もなく、安全面もほぼ完璧であった。

・参加ジュニア、保護者も喜び、満足していた。雨についてもい

い経験であった (保護者の意見として)。

・ザイルフィックス班は先発し作業を完了させ、スマースなジュニアの登攀が出来た。

○今後の計画 平成二十六年三月に雪山を計画中

○今後の課題

①これからいかに継続していくか。

一つのスパンとして五年間を目標に継続し、今回のジュニア達を見つめていきたい。

②これからも新しく参加してくるだろうこの子たちを、どのように育てていくのか (当然継続する子しない子はいるが) 群馬県

山岳連盟ジュニア委員会としても、ジュニアの裾野を広げる中で目標を立てる必要があると思われる。

○担当スタッフ

CL 金子一美

受付 池田登・金子

登山 金子・池田・毛呂憲治

先導 小暮文彦・三田治宣

写真 八木原園明・小泉俊夫

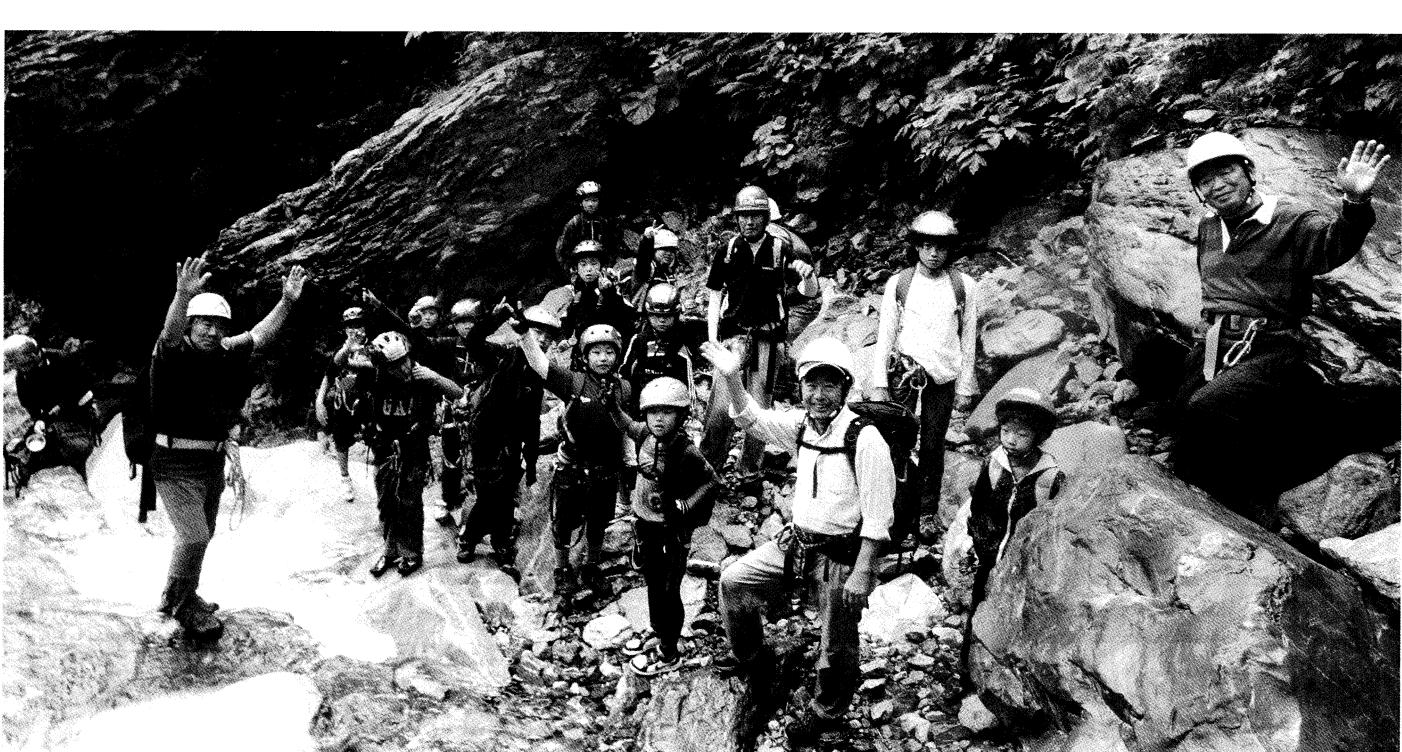
医療 田中壮信・八木原

スワイーパー 湯沢好夫・小泉

設営 吉田尚紀・後藤文明・大和亨

保護者 千木良一郎

協力 手島直樹・阿久津覚



感激の記念撮影



守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。
山岳保険の加入は登山者のマナーです。

■ 平成 24 年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成 25 年 6 月 13 日)

発生件数 **1,988** 件 (前年対比 158 件増)遭難者数 **2,465** 人 (前年対比 261 人増)死者・行方不明者 **284** 人 (前年対比 9 人増)

*

山岳保険は必携登山装備です

詳しくは → <http://www.sangakukyousai.com>

お問い合わせは

日本山岳協会山岳共済会事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL : 03-5958-3396 FAX : 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp
U R L : <http://sangakukyousai.com>

十三回忌慰靈トレック2013

群馬岳連理事長 佐藤光由

二〇〇一年、後輩の星野龍史、品川幸彦、福本誠志の三君がダウラギリI峰東壁で行方不明になつてから十二年。各家が十三回忌を終えた秋を過ぎ、冬休みの時期に現地に建つ慰靈碑にお参りに行くトレック計画を立てた。参加者は私達夫婦と後輩弥野と娘（三年生）、星野の母と奥様、娘（五年生）の七名。圧倒的に女性が多い！

私たち夫婦は六年前に七回忌で行つたときりネパールは久しぶりの訪問となる。子供たちは初めて。弥野と星野妻は遭難事故、星野母は事故翌年に慰靈碑建立トレッキング以来のネパールだ。

十二月二十一日（土）ぐんま組は前橋発4:30のバスで成田へ出発。予想通りの混雑でいつものルートを変えて成田には少し遅れて到着。富士山とスカイツリーが見えたから、まあ出足好調かな。電車で来た弥野家と合流してチェックイン。出発ロビーは大混雑！ 今日から休みの人は多いらし

い。11:40発のタイ国際航空（TG）で七時間少しがけてバンコクへ。

二十二日（日）バンコクのホテルでクリスマスマードを味わつてから今日はカトマンズへ。朝食後空港へ。海外赴任が長い弥野にチエックインを任せ、

飛行機の右側の席をまんまと手に入れる。さすが英語が堪能な弥野。二時間も乗ると右側にカンチエンジュンガが見えてくる。

二十三日（月）今日はポカラへ移動。9:10発の飛行機なので7:30にホテルを出る。ダウラギリのふもとのジョムソンまではカトマンズからの直行便が無い。待合室でさんざん待たされて十時近くなってからようやく呼び出された。ボーディングバスには番号がふつてあって席は自由。ここから見えるランタンの山を見していく出遅れたため右側窓の席には座れなかつた。三十人乗りのプロペラ機。離陸前にスチュ

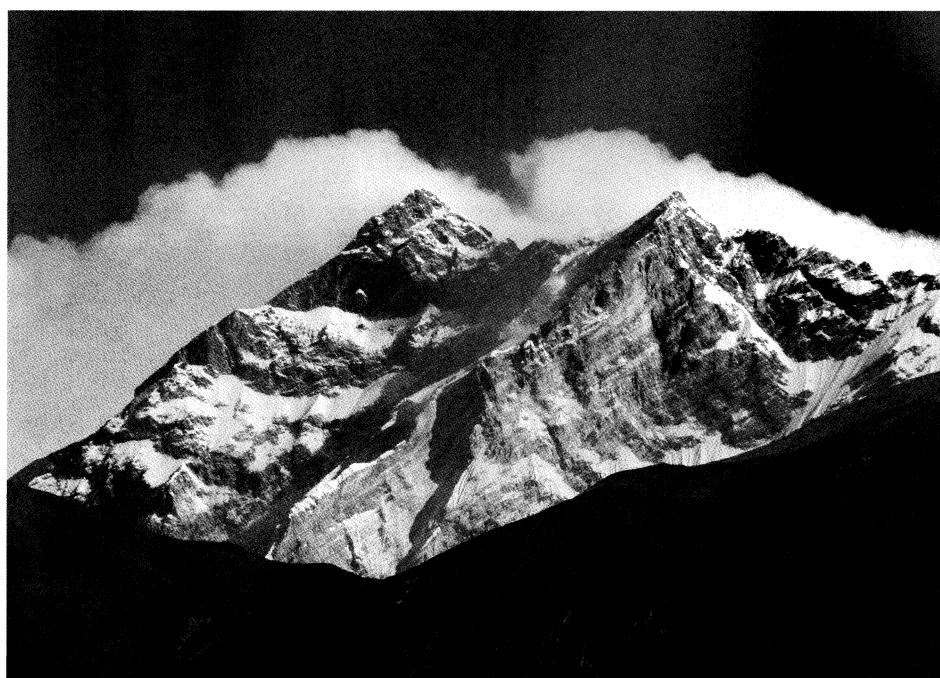
で入国時にビザを取つて入国。雑コックを食べながら一杯。久しぶりの再会で楽しく飲む。お酒持込みOKなのが嬉しい。

二十四日（火）目的地のジョムソンへ出発。7:35出発の便なのでホテル発は6:15。朝食はランチボックスを作つてもらう。空港についてももちろんすぐには飛ばない。二階のレストランでお茶。物館の見学に出かける。

ワーデスが綿と飴を配る。もちろん両方もらわない。離陸してすぐ山群、マナスル山群が見えてくる。最後にアンナプルナ山群がきれいに見えてくる。良い天気だ。飛行機は下降開始。ダウラギリもちらつと見える。三十分のフライトでポカラ着。ちょっと待たされながら午前中にホテルに入れた。ペ

レンジしてくれるコスモトレックへ全員で出かける。今回のガイドはルナさん二十七歳。真面目そうな好青年という印象。明日からの計画を打ち合わせる。

夜はコスモトレックのご夫婦とホテルでチベット鍋料理のギャコックを食べながら一杯。久しぶりの再会で楽しく飲む。お酒持込みOKなのが嬉しい。



アンナプルナI峰

マーチ一月一日（水）アーリーモーニングでダウラギリ山荘へ。山荘はマーチ一月一日（水）アーリーモーニングでダウラギリ山荘へ。山荘は

ワーデスが綿と飴を配る。もちろん両方もらわない。離陸してすぐ山群、マナスル山群が見えてくる。最後にアンナプルナ山群が見えてくる。良い天気だ。飛行機は下降開始。ダウラギリもちらつと見える。三十分のフライトでポカラ着。ちょっと待たされながら午前中にホテルに入れた。ペ

レンジしてくれるコスモトレックへ全員で出かける。今回のガイドはルナさん二十七歳。真面目そうな好青年という印象。明日からの計画を打ち合わせる。

夜はコスモトレックのご夫婦とホテルでチベット鍋料理のギャコックを食べながら一杯。久しぶりの再会で楽しく飲む。お酒持込みOKなのが嬉しい。

て大きく見えてくる十一年前、碑を建てた後、三人の家族と縁者とともに歩いたジョムソン街道が眼下にあり、次第にダウラギリが大きくなってくる。東ダウラギリ氷河が大きく迫るとジョムソンへの着陸態勢に入る。昨年オーバーランの事故が起こっているだけに緊張が走るが、無事着陸。ほつ。

さつそく行動へ。まずは碑へお参り。チェックポストでトレッキングパーキッシュョンを提示してムクチナート方面へ。軍隊の駐屯地を過ぎて川を渡り左手の丘が碑のある所だ。ダウラギリの頂上付近が良く見えている。ここまでゆっくり二十分。

近づくと巨大な建物！韓国援助のFM局だ。もしかして壊されたかと心配したが「あつた！」。谷側に建てたのが幸いして残っていた。守ってくれているこの村にも感謝。

それぞれの思いを込めて線香をあげ合掌。遭難当時お腹の中だった星野の娘の莉羽ちゃんは、今年の夏に行うミュージカルの服にこだわっていた。それなりの思いがあるようだ。

三人の思い出に浸り、冥福を祈つて碑を離れる。ダウラギリの

写真をアップで撮る。

次は東ダウラギリ氷河を見にタサンビレッジへ。今回の航空チケットを手配してくれた、「風の旅行社」古谷お勧めのスポットだ。

九〇〇〇ルピーでジープをチャーター。リングで有名なマルファ、ツクチエを過ぎてからダウラギリ方面へ高度を上げる。車道の終りにタサンビレッジホテルがあつた。壮観！彼ら三人が眠っているであろう東ダウラギリ氷河が眼前に迫る。左は群馬県山岳連盟が一九七八年に初登攀したダウラギリ南東稜！正面は彼らが挑んだ東壁。氷河を越えた向こうには田辺さんが眠る。右はツクチエピーク。

逆光になつた山々が圧倒してくるようだ。往復で三時間かかるので、お茶を飲み、写真を撮りまくつて帰路に着く。

本日のホテルは、マウンテンリゾートホテル。事故以来の宿泊だ。\$150という今回一番高いホテルは全くの期待外れ。いつまでもつのかな。満天の星を楽しんでから、湯たんぽを抱きながら眠りにつく。

明日だつて飛ぶかどうかわからないから九時間かけて車でおりる計画に変更だ。

大変なのは子どもと年寄りだ。覚悟を決める。

道が悪い！でも、三十二年前はボカラから歩いていたことを思うと隔世の感じがある。途中、アンナブルナが見える所で休憩。名塚さんが亡くなつた北面が見える。この山の南面には先輩の斎藤安平さんと後輩の小林俊之が眠る。この地域は重い！

望できる。こちらの天気は良いがポカラが悪いらしい。じつと待つしかない。ジョムソンは風の街といわれ午後になると風が強くなる。午後になつたら絶望だ。十一時半になつて昼食をとりに飛行場外へ出たところでフライテキャンセルの知らせ。インスタントラーメンを食べながら、ガイドにジープのチャーターを指示。

明日だつて飛ぶかどうかわからないから九時間かけて車でおりる計画に変更だ。

大変なのは子どもと年寄りだ。覚悟を決める。

アナンナルナ山群、中央にマチャチャレー、右にはマナスルまで見えている。全員が写真を撮りまくつてからここでゆつくりと食事。

午後は湖畔で買い物を楽しむ。

ここまで下痢をする人もなく無事来られた。ここで慰靈トレックはひと区切り。明日からは子ども達のためにチトワン国立公園で動物と楽しもう。

二十七日（金）ポカラからチトワン国立公園にあるナラヤンリゾートホテルへ車で移動。ムグリン経由で半日の行程だ。ここでガイドと別れる。ポカラーカトマンズ間にあるムグリンから川沿いを南へ下る。下りきると平原。穀倉地帯と風景は変わる。牛を使って耕作している様子も見られる。

十三時頃にホテル到着。入った途端にイギリス式の接待が始まり、

20:50にポカラ到着。車の中で踏ん張つていたから明後日は筋肉痛だ。ホテルは昨日泊まつたランマークホテル。明日は調整日のためポカラ滞在。ゆっくりする。

二十六日（木）今日はポカラ滞在。空気が良い午前中にビューポイントのサランコットへ出かけることにする。ホテルからよく見え

るこの丘はパラグライダーが盛んにたくさん飛んでいるのがよく見える。ホテルから車で約三十分。展望台までゆつくり歩いて十分。

携帯電話の基地局がある一番高い展望台まで入場料を払つて入る。朝

たが絶景だ。左はダウラギリからアンナブルナ山群、中央にマチャチャレー、右にはマナスルまで見えている。全員が写真を撮りまくつてからここでゆつくりと食事。

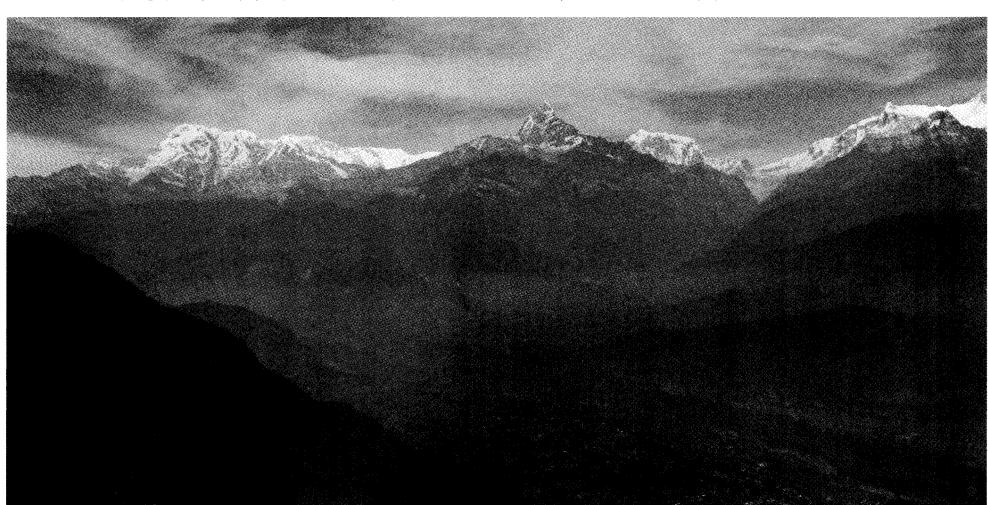
ここまで下痢をする人もなく無事来られた。ここで慰靈トレックはひと区切り。明日からは子ども達のためにチトワン国立公園で動物と楽しもう。

二十七日（金）ポカラからチトワン国立公園にあるナラヤンリゾートホテルへ車で移動。ムグリン経由で半日の行程だ。ここでガ

イドと別れる。ポカラーカトマンズ間にあるムグリンから川沿いを南へ下る。下りきると平原。穀倉地帯と風景は変わる。牛を使って耕作している様子も見られる。

十三時頃にホテル到着。入った途端にイギリス式の接待が始まり、

従つて我々の面倒を見ててくれる専



サランコットから

午後になつても眺めが良い。建築中のようなフォートリゾートホテルへ。中国系の宿泊客が多く何しろうるさい。でもカメラは一流！ニコン、キャノンの大型カメラ。まあ許してやろう。ヒマラヤが見える北側の部屋が用意してあって感謝。

今日は弥野の誕生日。夜はみんなで乾杯。明日の快晴を願う。

三十日（月）夜明け前の早朝から中国系がうるさい。都合よく目

を覚まして東空に残っている月を撮る。ヒマラヤはまだ目を覚ましていない。日の出は

6・50。三十分ほど前から高い山よ

り明るくなってきた。北側一八〇度以上にヒマラヤが広がる。空気が澄んでいて良く見える。マナスルからガネシュ、ランタン、ロールワリン、チヨ・オユー、エベレストまで見えている。雲があつ



ナガルコットから

たため七時過ぎに日の出となつた。記念撮影をして9：00にホテルを出る。カトマンズへ。

三十一日（火）予備日分。昨日は午後からお買い物。今日は観光を少しだけして帰国準備。世界遺産のボードナート（目玉寺）とダーバンスクエア（旧王宮）を見学。後はお買い物。待ち時間が長い。夜はニューハイアード（きらびやかだつた。泊まっているチベッ

ターバンスクエアー（旧王宮）を見た時にガイドから「カタ」をかけられずには残つた1本をガイドにプレゼントする。「そんなにいただけない」という証拠だねー。別れ

てもらうと子ども達が意味を聞いてきた。SafetyとGood luckだ。感謝しつつ手を振る。

十三回忌でひとくぎり。事故当時に走り回った私と弥野は、大きく環境が変わつても何とかお参り

することができた。品川家、福本家とも良い付き合いが続いている。星野母は十年のパスポートをとつたからまだやる気らしい。奥さんと娘もまた来たいと言つてくれていた。七人という少数でも彼等三人の近くに行き弔うことができ満足できる旅だつた。次は三十三回忌！私が生きている可能性は何パーセントかな？

十三年間、家族をはじめ我々を支えてくれた皆様にただただ感謝！

星野龍史、品川幸彦、福本誠志

群馬県山岳連盟の会員の皆さんには意外なことかもしれません。

利根実業高校山岳部 冬山合宿報告

2013・12/25～27

— 谷川岳天神平 —

山岳部顧問 田中洋史

布される学校からの通知には必ず「冬山登山は禁止です。」の一文があることに驚いたことがあります。あるかもしれません。

その中で、県内の高校山岳部・登山部には、十二月一日～三月三十一日の期間には「寒冷積雪地基礎訓練」という名目で、事前に提出した計画について審査が行われます。上での①スキー場とその周辺、②村落周辺林野などでの冬山訓練、を実施して良いことになっています。訓練ですので登頂を目的とするような山行は認められていません。

この手順のうえで、昨年末に行われた、利根実業高校山岳部の冬山合宿の様子を報告します。

通知により冬山登山が禁止されています。皆様のご子息で高校生がいれば各学校から配布される「冬休みの過ごし方」などの名前で配

十二月二十五日（晴れ）

年末に行われた、利根実業高校山岳部の冬山合宿の様子を報告します。

トホテルでもパーティ企画しているようだつた。

一日（水）十時にピックアップしてもらって空港へ。買ってきた

6・5Lのウイスキーは、飲みきれずには残つた1本をガイドにブ

レゼントする。「そんなにいただけない」という証拠だねー。別れ

てもらうと子ども達が意味を聞いてきた。SafetyとGood luckだ。感謝しつつ手を振る。

十三回忌でひとくぎり。事故当時に走り回った私と弥野は、大きく環境が変わつても何とかお参り

することができた。品川家、福本家とも良い付き合いが続いている。星野母は十年のパスポートをとつたからまだやる気らしい。奥さんと娘もまた来たいと言つてくれていた。七人という少数でも彼等三人の近くに行き弔うことができ満足できる旅だつた。次は三十三回忌！私が生きている可能性は何パーセントかな？

十三年間、家族をはじめ我々を支えてくれた皆様にただただ感謝！

星野龍史、品川幸彦、福本誠志

群馬県山岳連盟の会員の皆さんには意外なことかもしれません。

その中で、県内の高校山岳部・登山部には、十二月一日～三月三十一日の期間には「寒冷積雪地基礎訓練」とい

う名目で、事前に提出した計画について審査が行われます。上での①スキー場とその周辺、②村落周辺林野などでの冬山訓練、を実施して良いこ

とになつています。訓練ですので登頂を目的とするような山行は認められていません。

この手順のうえで、昨年末に行われた、利根実業高校山

岳部の冬山合宿の様子を報告します。

A black and white photograph showing a group of people gathered around a large, light-colored, curved object, possibly a vehicle or a piece of equipment, in a snowy environment. The scene is set outdoors with snow-covered ground and trees in the background. The people are dressed in dark clothing, and their shadows are cast onto the snow. The overall atmosphere is one of a cold, outdoor setting.

まで快調に歩く。JRにて水上乗り継ぎ、土合駅で下車。長い階段を上り地上駅に到着、一休みした後、スペツ、オーバーミトンなどを装着しロープウェー土合駅に向かう。

利根実業高校出発（8：40）：沼田駅（9：12）＝土合駅（10：10）：土合ロープウェー駅（10：55）＝天神平駅（11：17）：天神平スキー場東ピーカ（12：30）…
一五〇〇mピーカ（13：00）（幕営、ダンロップV6十冬張り、二張）

岳をバックに記念撮影も。天
神平スキームの頂稜部、南端
の一五〇〇mピークにテント
2張りを設営した。

十二月二十六日（晴れ、風やや強し、天気は下り坂）
起床（4：30）テントサイト発（7：35）天神平スキー場の周辺にて、ワカン歩行、雪上訓練を行う。

天狗の踊り場の岩の下付近
：熊穴避難小屋（8..41）：

トマの耳（10..21）：熊の穴避難
小屋（11..07, 11..40昼食）：ズ
キー場東ピーカ（12..35）その後
スキー場ロッジにより、テントサ

イト着(14..15)

晴れだが風が徐々に強まり

天気は下降氣味である。ス

キー場上部より忠実に稜線を

たどり熊穴避難小屋へ
仍年

に比へてこの時期としては重

ので、ファンを表すせば、

ま足で登る。

スキー場こより、トイレス

スキ一場に戻り、トイレを借りたり水汲みをしたりしてテントサイトに戻った。

十二月二十七日（雪）

起床（4..30）テント撤収開始
（6..20）テントサイト出発（7..
25）：天神平ロープウェー駅
（8..20）＝土合ロープウェー駅
（8..37）：土合駅（8..55）＝
水上駅（9..38）＝沼田駅（9..
55）：利根実業高（10..30）

冬用テントの撤収には時間がかかる。今回はポール先端の留め具が抜けたため、数本のポールをテントと一緒にパッキングした。二日五本しかない土合駅の上り電車に乗り遅れバス利用となつた。学校到着後、テントやその他のすべての道具類を空き教室に干し、学校前の食堂にて昼食と反省会をして解散した。（群馬県高体連登山委員長）

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町 1231 TEL・FAX 0278-23-6802
<http://annapurna.jp>

Annapurna

関東 オートキャンプ場 なら 桐の木平キャンプ場 溪流サイト 団体専用あり

桐の木平キャンプ場

〒378-0102

群馬県利根郡川場村川場湯原2681

tel 0278-52-2442

電話、弱電工事

プロモリ電設

〒 379-2223

伊勢崎市小泉町 252

☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2

TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026